

チュウゴクアミガサハゴロモについて

○チュウゴクアミガサハゴロモとは

- ・ 中国原産の外来種。
- ・ 幼虫は放射状に口ウ物質をまとった特徴的な姿をしている。
- ・ 卵は若い枝に産卵し、白い口ウ物質で覆われる。
- ・ 成虫と幼虫が樹木の枝や葉から樹液を吸う。

○分布と生態について

- ・ 平成27年に大阪府で国内初確認。
- ・ 本県では令和2年に紀の川市で初めて確認されたのち、令和7年には田辺市や上富田町まで分布が拡大している。
- ・ 広食性で果樹、庭木、街路樹など100種以上の樹木に寄生する。
- ・ 成虫の発生は6月～と8月～の年2回。

○被害について

- ・ 排せつ物に「すす病」が発生する場合がある。
- ・ 成虫に産卵された枝が枯死する場合がある。



枝の産卵痕



幼虫



成虫

○対策について

- ・ 令和8年6月現在、本種に適用のある農薬はないが、有機リン系、ピレスロイド系、ネオニコチノイド系等の農薬は、本種の成虫や幼虫に対して殺虫活性が高いとの報告があるので、慣行防除園では対策の必要性は低いと考えられる。